

問答形式による、「最終版」作成に向けての重要論点整理

⑦ とは言え、やはり？「記紀」の読み込み（裏読み？）だけでは限界がある？！

- I: ということで、今更、こういうことを言うのも何ですが、やはり？「記紀」の読み込み（裏読み？）だけでは限界があるのではないですか？端的に、そこには、解説（裏読み？）者の恣意が大きく働くということですか？
- D: それを言われれば、ほとんど身も蓋もなくなるわけですが、だからこそ、そこには、多くの情報、と言うか、より妥当な解説（切り込み？）の視点が必要だということになります?! 単なる「いいとこ取り」や「思い込み（入れ?）」だけではいけないということですが、それは、当然と言えば、あまりにも当然でしょう！
- I: そうですよ！ということでは、もう一つのアプローチである「考古学的発見（考察）」が、大きな力となると思うわけですが、それについては、何か有力な情報（事実?）とかありませんか？
- D: 実は、それが沢山あり過ぎて、私一人の手では、とても処理できないのですが、前に述べた「吉備」のことは、かなり確実なものではないでしょうか?! 何故なら、これは、今では、いわゆる「定説」となっていると思われませんが、例の「纏向遺跡（祭政都市）（三輪山麓）」では、「吉備」の要素が色濃く示されているのです（例えば「箸墓古墳」の原形は、吉備の「楯突墳丘墓」にあるとか!）! だから、最初の大和政権? は、「吉備」を中心とした部族・勢力であったと言えるのです?! ちなみに、「邪馬台国近畿大和説」の人に言わせれば、「卑弥呼は、そこに眠る『ヤマトトビモモソヒメ』である」ということになるわけですよ!
- I: ただし、それ自体は、やはり違うということですよ?
- D: もちろんそうですが、そこには、いわゆる「三輪王朝」と呼ぶべきものがあつたことは事実です! 例の「大物主」（出雲の「大国主命」の和魂にぎみたまと言われてます!）と、その姫のことが、「記紀」にあります、その王権は、まさに「出雲」（龍蛇信仰）と「吉備」（太陽信仰）が糾合されているようにも思われます?! ただし、それは、あくまでも初期の大和王権の様相であり、その後は、巨大古墳群の移動の事実からも分かるように、近畿大和は、かなりの変動（王権の移動?）があつたことは間違いないと思います!
- I: いずれにしても、要は、そのようにして、「記紀」の内容と照らし合わせる事が出来る、そういうことが大切だということですね?
- D: そういうことですね! ただし、繰り返すように、「記紀」の記述を妄信してもいけないということです!
- I: とは言え、まずは、そうしたチャレンジ（ある種の暴走?）は必要なではありませんか?
- D: ある意味?、そういうことになるのですが、あくまでも、「結論先にありき?」では困るということです! 往々にして、人（私もそうかな?）は、そのようになっていくのですが、それでは、まさしく「記紀」の術中? に嵌ることにもなる?! だが、実際は、その術中? から逃れることは、なかなか難しい?!
- I: ということで、改めて、そういうことを確認して、次なるチャレンジとしては、どういうことになりますか?
- D: ここでの話からすれば、北部九州を根拠地（出発地）として、近畿大和で王権を確立した関係氏族・勢力が、一体どのような氏族・勢力であつたのか? そして、彼らは、何故、ある意味不便な? 大和盆地に集結し、そこを都（居城?）としたのか? そういうことを解明することかと思ひます!
- I: 確かに、不思議ですよ? 海がなくて、物資や人の往来も、大変厳しい立地の所ですよ? しかも、弥生時代までは、その地は沼? であつたということで、その後盆地となって、人々の居住も始まつたということらしいのですが、かなりの湿地帯で、とても「まほろば（佳い土地）」と言えるような場所ではなかつた?
- D: これについては、再び「関裕二氏」の言ですが、そこは、その関係氏族・勢力にとっては、等しく有利な土地で（方角、距離等）、ここがなるほどと思わせるのですが、守る側にとっては、まさに天然の要害（四方を山に囲まれた盆地!）であつた! そして、それぞれ、近場の川・海（航路）に出ていくことが出来た!
- I: 要は、四方から集まつた、まさに「寄せ集め」の氏族・勢力にあつては、誠に都合の良い場所でもあつた? そういうことですね!
- D: そうです! そこは、最初は、農耕民（多分南方系? 呉族? →「唐古・鍵遺跡」）が扶植したと考えられますが、もう一つは、生駒山地の一角だつたと記憶していますが、当時としては、物凄く貴重で、高価であつた「朱（硫化水銀）」の大鉱脈があつたということです! おそらく、銅鉱床（あるいは鉄も?）もあつた?!
- I: なかなか面白くなってきましたが、そうは言っても、ただそれだけでは、あのような事態（変化）は考えられませんよね?!
- D: 確かに、言われてみれば、そうなのですが、実は、もう一つ大きな理由も考えられるのです?! これも、先の「関裕二氏」の説ですが、そして、それが、私の最も大きな関心事でもある、九州（倭国）との関係なのですが、いわゆる「倭国大乱」（2世紀末）によって、大きな社会変動を迎えた! そこで、いわゆる「環濠集落（巴形銅器・銅鐸）勢力」と、「前方後方墳（手焙型土器・火）勢力」、そして、その後の「前方後円墳（銅鏡・太陽信仰）勢力」の、言わば三つ巴の集散離合が繰り返された?!